

二 廣瀬中佐。

最期

糾合

七度、この世に生きかはり、朝廷の敵をたやさんと、
いひしは、楠公兄弟の最期の際の誓なり。
此の語に感じ、吾れも亦、七生國に報ぜん、と、
志操固めしその人は、海軍中佐廣瀬君。
ことし、旅順の攻撃に、港口閉塞試さんと、
決死の勇士を糾合し、沈むる船の長となり、
龍の鯨を探るにも、虎の口鬚弄るにも、
劣らぬ危険を衝き冒し、従容任務を果したり。
されど、成功未だしと、再び、その舉を懇請し、

彌生の末七日

敵の航路に深く入り、首尾能く目的達しけり。歸るに臨み、二度三度、杉野曹長見えずとて、棄てたる船に立ち返り、浪を踏むまで搜したり。船早沈み果てんとす。今は是非なし、是迄と、涙を揮ひ歸途に就く。この時、敵彈、雨・霰、數多の士卒を損ぜじと、身を以て蔽ふ一刹那、一丸烈しくかすめ去り、遺るはすこしの皮肉のみ。あな悼ましや、春の夜の、つれなき嵐に散る櫻、智仁勇武を兼備せし、日本益荒男失せにけり。この日は彌生の末七日、鬼神も泣き天地も、

一刹那

とはに

慘憺として、この恨、いつの代にかは盡きぬべき。後半箇月旅順口、また我が軍に襲はれて、敵將マカロフ以下千餘、旗艦とともに沈没す。斯かる勝利は、前日の閉塞與り力あり。又、敵軍の運命を、中佐の靈もや誘ひけん。七生報國誓ひてし、その徴證、先づ顯はれぬ。なほ、忠魂はこの後も、とはに皇國を護るらん。嗚呼、その志操、この行爲、げに軍人の模範なり。千秋萬古語り繼ぎ、無數の廣瀬世に出でん。千秋萬古語り繼ぎ、無數の廣瀬世に出でん。

千秋萬古語り繼ぎ

(横井忠直原作による)

三 汝は紙使か

一